

ありがとうグアム

富田 涼

グアムの空港のチェックを抜けると人がたくさんいた。僕が一番最初に出たので手を振っている人も一人だった。駆け足で向かった。向かうと Kyle は僕を家族のところに連れていってくれた。さっそく写真を撮られ……。写真撮影が終わると外に出た。「外は熱いよ」とお父さんには言われていたが確かに熱い！

恋人岬に行ったあと、Kyle の家に行った。‘これからここで生活するのだな。’と思った。

2日目はSt. Francis Catholic Schoolで授業を受けた。授業は当然だが全部英語。

ついていけないなと思っていたら隣に座っていた子に「日本語教えて」と言われ教えていたら「先生」と呼ばれた。日本では考えられない授業が終わり給食を食べた。

3日目も授業を受けると思っていたが、観光に行くことに……。ガッカリしていたが帰りに学校に寄った。うれしくなったので思わずクラスメイトの写真を撮っていた。

4日目と5日目はKyle一家と観光に行った。グアムを一周したがグアムはやっぱりきれいだ。

こうやってグアムでの生活はあっという間に過ぎ、もう最終日になってしまった。

やはり最終日だから一番時間が早く過ぎていった。

最後の最後まで僕に話してくるSt. Francis Catholic Schoolの人たち。Kyleのクラスメイト。グアムの人々。絶対に忘れない。

そして空港に行かなければならない時間が来た。涙が出そうになったが、涙を流さないと決めていたので流さなかった。

とうとう飛行機はグアムの地を離れてしまった。窓越しに見えるグアムの島。

僕はKyleが日本来るのを楽しみにしている。そしてKyle一家とグアムの人々に、‘僕は必ずグアムに帰ってきます。’と言いたい。

